

【房安光議員の賛成討論】

(この討論は録音テープを起こしたもので、議事録ではありません)

私は、議員提出議案第4号可燃物処理施設に関する決議に賛成する立場で討論します。

本年4月に行われました市長選挙において竹内市長の相手候補とある市民団体との11項目からなる政策協定に以下のような事項がありました。

「広域計画による大型可燃物処理場の建設を白紙に戻し、生ごみのたい肥化など徹底したリサイクルを基本にすえた長期的かつ総合的な環境対策を立案するなかで考え直し、2050年を目標にゼロ・ミッションを達成する」というものです。

環境問題を考えるとき、将来的に理想の姿としては理解できますが、現実には30年以上も可燃物処理施設を稼働させないということは不可能であります。

当然のことながら、可燃物処理施設は鳥取市はもとより東部圏域25万人の生活を守っていきうえで、絶対なくてはならない施設であり、現状を考えると、その建設促進は市民生活を守る重要かつ喫緊の課題であります。

国英地区関係6集落の話し合いにより環境影響評価に着手できましたことに対し、地元関係者のご理解並びに東部広域行政管理組合のご努力、この場を借りて敬意を表します。

竹内市長は「建設同意と環境影響表をおこなう同意は別のものだと考えている。施設建設の同意については、環境影響評価の結果をふまえ、あらためてお願いしなければならない」と、2月定例会の答弁で述べておられます。

この答弁、河原地域審議会の答申、5月31日の東部広域管理組合議会の議決を十分踏まえた事業の推進を図らなければなりません。この意味において、本決議は鳥取市はもとより東部圏域25万人の生活を守っていくうえでの本市議会の明確かつ必要不可欠な意志表明であると考えます。

議員皆様の本決議に対するおおいなるご理解、ご賛同をお願いし、賛成討論とします。